

## 平成 28 年度 第 3 回 研究・経営評議会 議事要旨

1. 日 時：平成 28 年 10 月 14 日（金） 10:00～12:00
2. 場 所：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 205 会議室
3. 出席者：  
（委員）喜連川委員、竹中委員、永井議長、成宮委員、山本委員  
  
（事務局）末松理事長、菱山執行役、樽林執行役、泉研究総括役、  
松尾経営企画部長、鈴木研究公正・法務部長、森田産学連携部長、  
加藤バイオバンク事業部長、大場経営企画部次長、神谷戦略推進部  
次長、針田戦略推進部次長、佐野国際事業部次長、本橋臨床研究・  
治験基盤事業部次長
4. 議事
  1. 日本医療研究開発機構の取組と課題
  2. 法人評価の結果について
  3. 平成 29 年度概算要求について
  4. その他
5. 議事の概要  
議長より開会する旨の発言があり、出席者の報告の後、議事に入った。  
  
議事 1 について、事務局より、平成 28 年 3 月の研究・経営評議会後の取組、  
今後の課題等について説明を行った。  
委員からは、以下のようなコメントがあった。
  - e-rad について、使いづらいという声を研究者から聞くが、利便性の改善  
が進むとよいと考える。
  - 企業においても、疾患に関する研究をやると 10 年くらいは必要になるの  
で、補正予算の出資金の仕組みがあれば、そういった研究にも取り組み  
やすくなると思う。ロングタームにどういう領域を推進するかという指  
針も出した方がよい。
  - 中央倫理審査委員会の取組が進んでいるのは大変良い。こちらの取組で  
は質の担保にも留意いただきたい。

- クリニカル・イノベーション・ネットワークで疾患情報レジストリが作られているが、医療版マイナンバーができたときに、必要なときにデータを収集すればいいということになれば、そのときに存在しているデータの質が問題となる。
- 生物統計家を人材育成事業で育成していくことが必要。育成した後でどういうキャリアを用意するか、育成した人が日本の大学や研究所に配置される体制がとれるかが重要。バイオインフォマティシヤンのキャリアについても考えてほしい。
- 構造生物学での基盤や人材育成についても、取組が必要。
- AMEDの海外事務所に企業の人材を入れることも検討してはどうか。情報が入りやすくなるし、これから海外進出を狙う企業が、AMEDを通じて海外の公的機関や民間ともつながりができる。
- 英文での研究費の応募について、日本の研究者がこれからいろいろなところから研究資金を得るためにも、慣れていける環境があると良いと思う。
- 民間における信頼性保証のシステムやインテグリティを保つ上での要求等を参考にして、AMEDにおいてもアカデミアのリサーチインテグリティの取組を進めていただきたい。
- 共用法に基づく施設の共同利用にはそれなりの配慮がなされていると思う。また、学会会議での最近の議論ではビッグデータ関連のものが多く、インフォマティシヤンの取り合いになっているところがあり、統合的にどう育てていくのかを考えていく必要があるのではないか。

議事2について、事務局より、平成28年9月に主務省庁から示された日本医療研究開発機構の法人評価について説明を行った。

議題3について、事務局より、医療分野の研究開発予算の平成29年度概算要求のポイントについて説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- 課題の支援状況のデータベースは、海外比較する上でも非常に重要になる。
- 「脳とこころの健康大国プロジェクト」の脳の分野では文科省事業から厚労省事業にうまくつなげているように思うが、心の分野においては、どうつなげていくかというところがあると思う。

以上をもって議事は終了し、議長より閉会する旨の発言があった。